

WORKSTATION TIMES

2019 December vol.23



Happy Halloween! ジャック・オー・ランタンを作りました♪

Exciting!!



2019年10月31日(木)外国語教育センターワークショップにて、留学生と日本人学生との交流イベント「Happy Halloween! ジャック・オー・ランタンを作ろう!」を開催しました。

留学生9名、日本人学生7名の計16名が参加しました。学生たちは3つのグループに分かれ、一生懸命にランタンを作成していました。

かぼちゃの種やわたを抜いたり、目や口の形にくりぬいたりする作業に苦勞していましたが、今回は昨年より早く、30～40分程度で完成しました。18時ごろには外も暗くなり、良い雰囲気の中で記念撮影も楽しみました! 日本語と英語を交えながら楽しい時間を過ごしました。



今月の「わたしの先生」! : [英語担当] 玉木先生

When I was in elementary school, my father gave me a pair of cassette tapes. They were Andrew Lloyd Webber's "Cats", which had just started on Broadway, NY. The cassettes were one of his souvenirs for us. I was so hooked on the music that I listened to them again and again till, eventually, the tapes wore out.

What I did next was to try to understand the lyrics. I wanted to know what was being sung. Fortunately, having several friends who spoke both English and Japanese around me, I started to annoy them with questions like: "What does Jellicle Cats mean?" or "Do you know what Heaviside layer is?" at school. I must have put them on the spot because "Jellicle Cats" refer to imaginary, special cats while "Heaviside layer" really exists, like the ozone layer, as a part of Earth's atmosphere, but in the show it is supposed to be a cats' heaven where they will be reborn.

Later, when I first saw Japanese version "Cats", I was shocked. The stage was spectacular, the performers were like real cats...still I felt like something was missing.

As a child, I didn't know what. Now I know it was the absence of rhymes which made me feel disappointed. Translated into different languages, the songs sounded to have lost part of their charms.

Rhyme means words or phrases that end in the same sound, e.g., *particular-perpendicular, dames-names, left over-discover* (these are some examples from "Cats"). Rhyme adds pleasant musical sound. Also, when appropriately used, they can convey subtle and wider meanings. (For example, in "Memory", the word *give in* is used as a rhythm for *begin*, which suggests hidden connectedness between two seemingly opposite, similar sounding words, and by which we somehow feel that to start something and to surrender is just a different phase of life and that the singer, though despised and deserted, clinging to hope, still has the energy to go on.)

With the sequel to *Frozen* (*Ana to Yuki no Joou 2*) coming out, how about trying its English version to enjoy more? (Yuko Tamaki)

『アナと雪の女王2』が公開されました。これから観に行く人は、英語版に挑戦してみるのはいかがでしょうか？きっと日本語版とは違う楽しみ方がありますよ。



「島大グローバル月間」が行われました！

11月は「島大グローバル月間」として外国語教育センターでも様々なイベントが行われました。その一部をご紹介します！

《“Intercultural Communication : What Gets in the Way & What Can Help”》

11月7日(水)、米国ネブラスカ大学からCharles Braithwaite先生をお招きし、異文化理解を深めることをテーマにした外国語教育センター主催による英語講演会“Intercultural Communication : What Gets in the Way & What Can Help”を開催しました。講演では、異文化理解を妨げる要因として、とすれば「ステレオタイプ化」して、他の国々の人々や文化を見てしまいがちになっているという指摘がなされ、文化による違いと共に類似点を見出す重要性も議論されました。参加した学生は、投げかけられた質問に、周囲の学生とにこやかに意見交換している姿が印象的でした。



《“みんな”のキャンパスプロジェクト》

11月11日(月)と11月15日(金)の2日間、「“みんな”のキャンパスプロジェクト」を開催しました。「みんなが使いやすいキャンパス」を目指して、留学生が日本人学生と一緒に、よく利用する図書館や学内の他の施設を見学し、課題発見、課題解決に取り組むというイベントで、留学生や日本人学生、本学教職員を含め延べ計24名が参加しました。



《世界の音楽Week～音楽で世界旅行～》

11月11日(月)から11月15日(金)の5日間は、「世界の音楽Week～音楽で世界旅行～」を開催しました。このイベントでは世界各国の伝統音楽を聴き、その国や地域、民族について話し合ったり、曲の感想を述べあったりしました。本学の留学生の出身地の音楽もあり、留学生が自国の文化について紹介するなどして日本人学生と交流しました。



普段聞く機会の少ない民族音楽
も楽しめました！

お祭りの音楽は、
雰囲気も素晴らしい♪



《留学生と“ダイバーシティ”について考えよう》

11月18日(月)には「留学生と“ダイバーシティ”について考えよう」を開催しました。このイベントでは、「生きる」「生きていること」をテーマに日本人学生と留学生が自身の考えや価値観について意見交換しました。留学生と日本人大学生の計62名が参加し、谷川俊太郎の詩を題材に独自の「連詩」作成にもチャレンジしました。



《“Love. Local. Shimane.”》



11月27日(水)午後6時45分から、人間科学部棟1階IPM教室にて、第2回“Love. Local. Shimane.”を開催し、留学生や教職員を含め、約40名が参加しました。



このイベントは、学生が関心のある島根県内の企業や店舗を訪れてインタビューを行い、地元の産業について学んだことを英語でプレゼンテーションするという取組でした。発表者の中には、島根県の西部に出かけ、浜田でよく知られる伝統的な「石州瓦」について学び、報告した学生がいました。また、松江の伝統的な「お茶文化」を学ぼうと地元の店舗を訪れて、実際に多くの種類のハーブティーを見つけたという報告もありました。さらに、フランスからの留学生も発表者として加わり、松江の地元の洋菓子店のオーナーにインタビューし、「フランスの味」を松江で見つけて驚いた経験を語りました。



それぞれのプレゼンテーションを聞いた後は、英語でディスカッションや、島根大学や島根県に関するクイズ大会も行われ、雰囲気が大いに盛り上がりました！

このイベントを通し、日本人学生と留学生の双方が、島根の魅力について興味関心を深めることができ、イベント名にふさわしく「**島根愛**」を育む取組となりました。

